[常陸国府跡（石岡市）]探訪レポート

これは市民会館

更に進むと石岡小学校の門となる

門を入って左側に民俗資料館の建物がある

資料館の正面に回る

資料館（左手）の右手には様々な説明板が立っている

現在の石岡小学校・市民会館等の敷地をふくむ地域が国府の跡と考えられている

健康ウォーキングコース⑦

常陸大掾氏歴史コース④

国指定史跡　常陸国府跡

所在地　石岡市総社一丁目二番

常陸国府の成立は、8世紀初頃以降である。国府の下に郡衙が置かれ、多珂・久慈・那賀・新治・白壁・筑波・茨城・信太・河内・香島の11郡を統括していた。国衙には、国内の政務に携わる行政官の勤務する役所や倉庫群などさまざまな建物があった。昭和5年、石岡小学校の校舎改築に伴い発掘調査が実施され、多くの大型の柱穴が発見された。その後、平成10年から平成11年にかけてのプール建設に伴う発掘調査では、掘立柱建物跡、溝跡などが発見された。この調査は引き続き平成13年度から8次にわたり行いその結果、この石岡小学校の校庭に国府が存在していたことが判明した。

国府は南向きに建てられており、東西に平行して塀がある。正殿の南に前殿を配し、四方を築地塀で囲んでいる。また一時期、東西に塀が建てられた時代もあったものと思われる。全国の例と同様に、それらの建物配置は左右対称である。さらに時代が下ると掘立建物から礎石建物に変わっていく。

東脇殿跡

◇大掾氏との関わり

大掾氏は代々「常陸大掾」という官職を世襲し、それがかがで家名となったものであるが、大掾という官職は各所官人のトップであり、時代の変遷はあるものの実質的に国衙機能を掌握していた。

◇エピソード～大掾氏と府中城

府中城は、戦乱の続く南北朝時代初期の1千年間（1350年）、（1351年）に築城された。1千年間によって築城されたといわれている。規模は東西約8町（約850メートル）、南北約4町（約450メートル）、ほぼ方形の平城であった。城は石岡市北部から町の北部の0メートル

国指定史跡　常陸国府跡

所在地　石岡市総社一丁目二番

常陸国衙の成立は、8世紀初頭前後である。国府の下に郡衙が置かれ、多珂・久慈・那賀・新治・白壁・筑波・河内・信太・茨城・行方・鹿島の11郡を統括していた。国衙には、国内の政務に携わる行政官の勤務する役所や倉庫群などさまざまな建物があった。昭和48年、石岡小学校の校舎改築に伴い発掘調査が実施され、多くの大型の柱穴が発見された。その後、平成10年から平成11年にかけてのプール建設に伴う発掘調査では、掘立柱建物跡、溝跡などが発見された。この調査は引き続き平成13年度から6次にわたり行いその結果、この石岡小学校の校庭に国庁が存在していたことが判明した。

国庁は南向きに建てられており、東西に平行して脇殿がある。正殿の南に前殿を配し、四方を築地塀で囲んでいる。また一時期、東西に楼閣が建てられた時代もあったものと思われる。全国の例と同様に、それらの建物配置は左右対称である。さらに時代が下ると掘立建物から礎石建物に変わっていく。

東脇殿跡

◇大掾氏との関わり

大掾氏は代々「常陸大掾」という役職を世襲し、それがやがて家名となったものであるが、大掾という役職は在庁官人のトップであり、時代の変遷はあるものの実質的に国衙機能を掌握していた。

◇エピソード～大掾氏と府中城

府中城は、戦乱の続く南北朝時代初期の正平年間（一三四六～一三六九）に第15代平詮国によって築城されたといわれている。規模は東西約5町（約五〇〇メートル）南北約4町（約四〇〇メートル）という広大なものであった。成り立ちについては、石岡城（外城：市内田島地区）から本拠を府中城に移したという説があるが、府中城と石岡城は、二城一体の城塞として「内城」と「外城」という関係で機能していたのではないかとも考えられている。

平成二十一年二月　石岡市教育委員会

石岡小学校の校舎改築に伴い、校庭の中央部付近の発掘調査が実施され、多くの柱穴が発見されたという

東脇殿跡

常陸国府跡とある

風間阿弥陀覆屋と万葉歌碑（手前）

万葉歌碑裏側

風間阿弥陀/石岡市指定文化財

風間阿弥陀

市指定有形文化財
昭和五五・六・二七指定
所在地　総社一―二―一〇

高さ約一三〇センチメートル、五輪塔が壊れたような形をしている粘土製の像です。

元来は、小栗城（現在の筑西市小栗）の守り本尊でした。

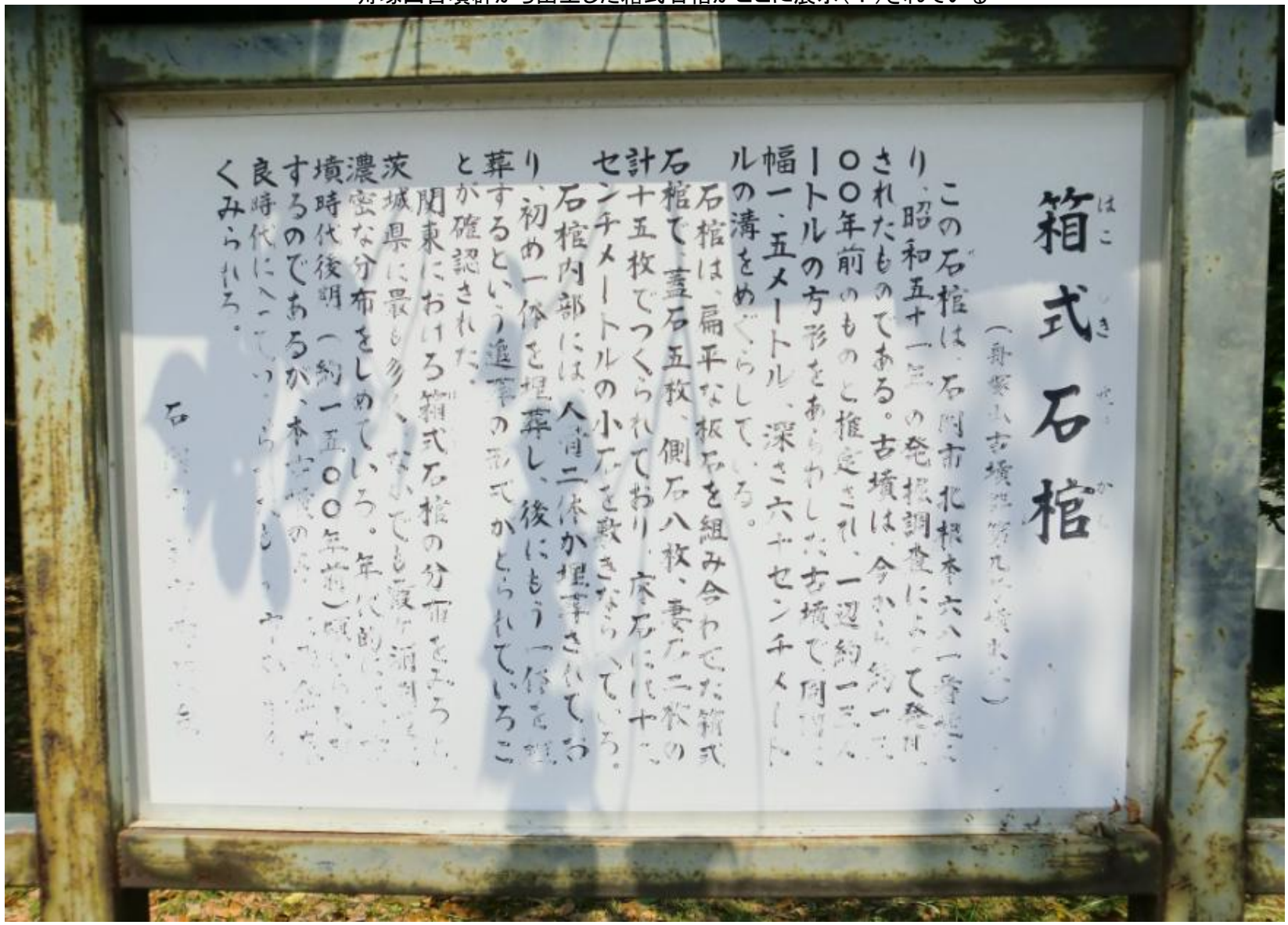
応永三〇年（一四二三）、小栗城落城の折、小栗十勇家臣の風間次郎正興、八郎正国親子が三河に落ち延びる途中（現在のかすみがうら市下志筑）、幼い四代目三郎正三とともにこの阿弥陀を残していかれました。それが風間家で代々守り続けている阿弥陀です。

風間家古文書によりますと、本尊は地下に埋め、地上に粘土で固めた像を置いたと言い伝えられています。

像は、風間氏の転居とともに場所を変え、現在に至っています。

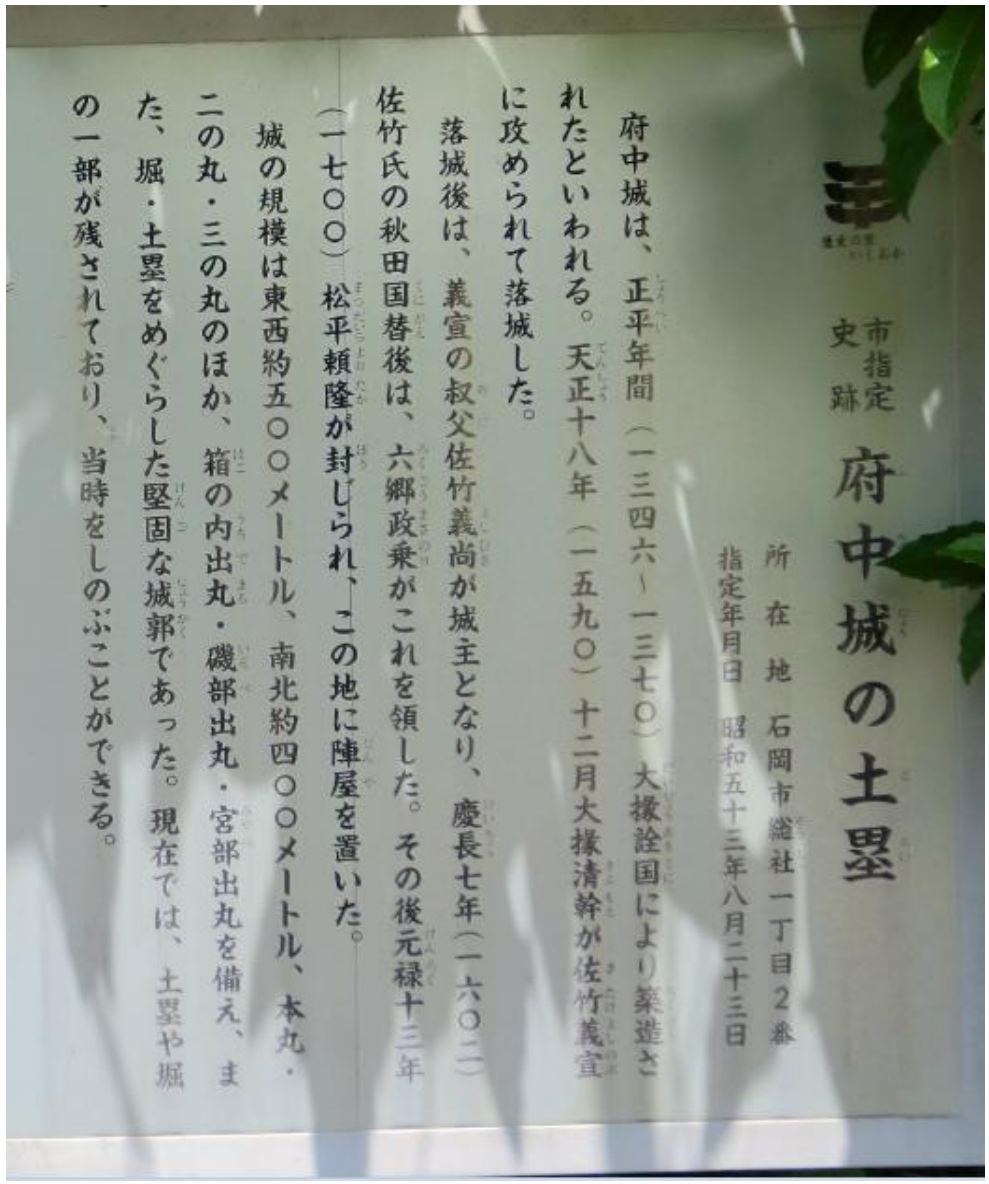
粘土製という

舟塚山古墳群から出土した箱式石棺がここに展示（？）されている



こんなところに置いておいてよいのか？

ここには中世の時代、府中城が築かれていたという



市指定史跡

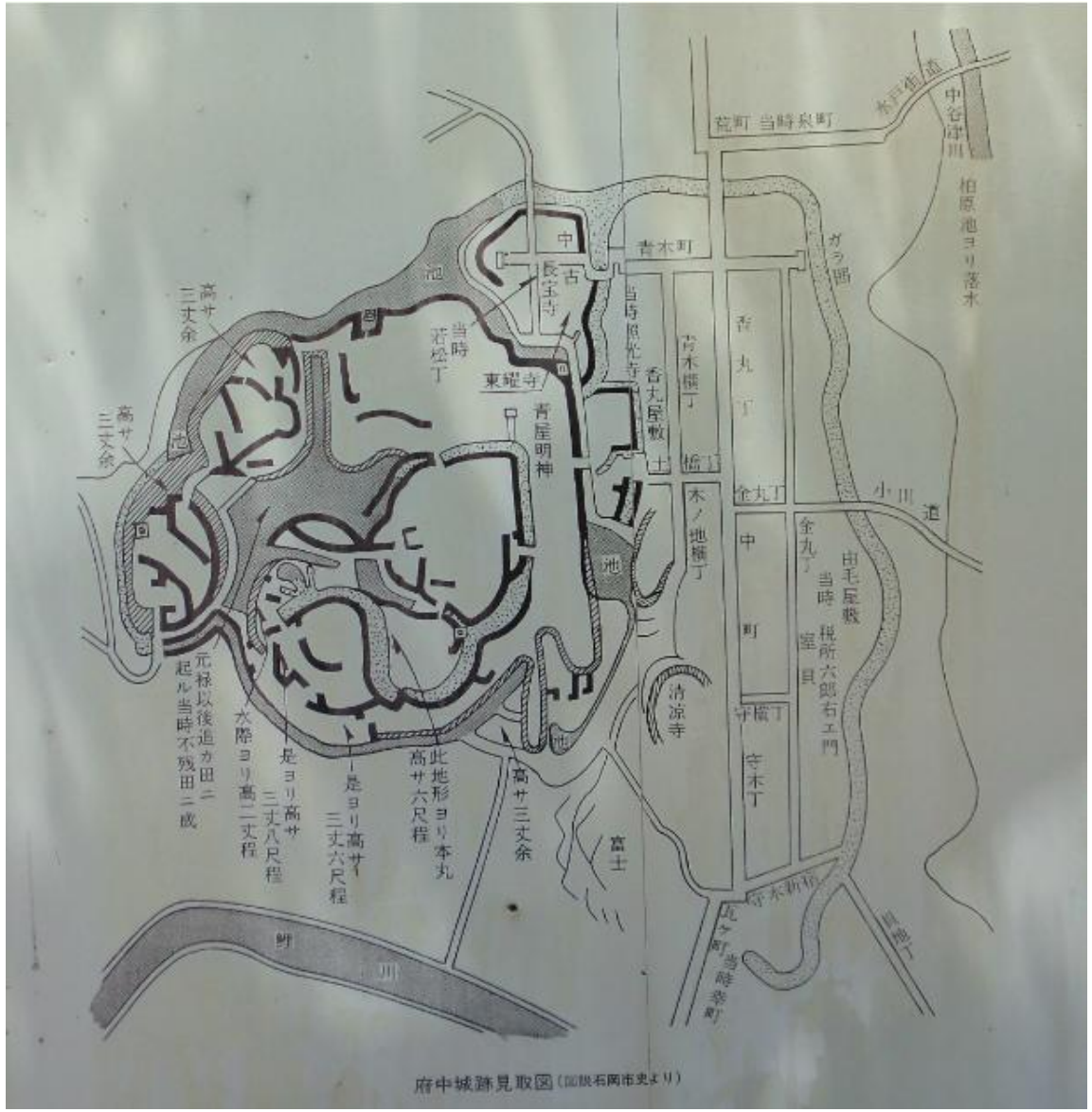
府中城の土塁

所在地　石岡市総社一丁目2番
指定年月日　昭和五十三年八月二十三日

府中城は、正平年間（一三四六～一三七〇）大掾詮国により築造されたといわれる。天正十八年（一五九〇）十二月大掾清幹が佐竹義宣に攻められて落城した。

落城後は、義宣の叔父佐竹義尚が城主となり、慶長七年（一六〇二）佐竹氏の秋田国替後は、六郷政乗がこれを領した。その後元禄十三年（一七〇〇）松平頼隆が封じられ、この地に陣屋を置いた。

城の規模は東西約五〇〇メートル、南北約四〇〇メートル、本丸・二の丸・三の丸のほか、箱の内出丸・磯部出丸・宮部出丸を備え、また、堀・土塁をめぐらした堅固な城郭であった。現在では、土塁や堀の一部が残されており、当時をしのぶことができる。



府中城跡見取図（図説石岡市史より）

府中城の土塁跡の斜面を見る

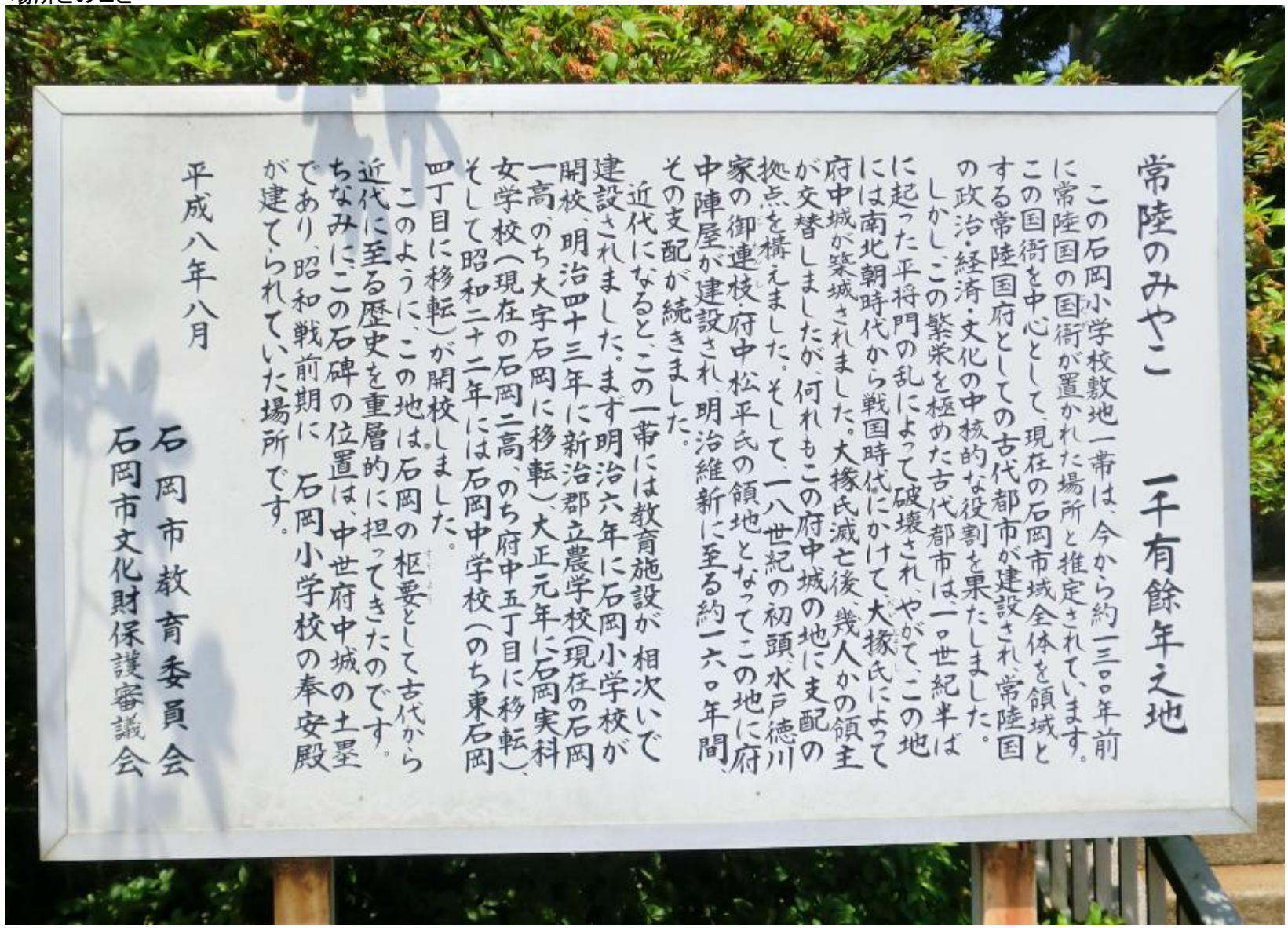
土塁の尾根を見る

土塁の尾根

小学校の門のために寸断されている

寸断された先

この地は石岡の枢要として古代から近代にいたる歴史を重層的に担ってきたと言える/この場所は石岡小学校の奉安殿が建てられていた場所とのこと



常陸のみやこ　一千有餘年之地

この石岡小学校敷地一帯は、今から約一三〇〇年前に常陸国の国衙が置かれた場所と推定されています。この国衙を中心として、現在の石岡市域全体を領域とする常陸国府としての古代都市が建設され、常陸国の政治・経済・文化の中核的な役割を果たしました。

しかし、この繁栄を極めた古代都市は、一〇世紀半ばに起った平将門の乱によって破壊され、やがて、この地には南北朝時代から戦国時代にかけて、大掾氏によって府中城が築城されました。大掾氏滅亡後、幾人かの領主が交替しましたが、何れもこの府中城の地に支配の拠点を構えました。そして、一八世紀の初頭、水戸徳川家の御連枝・府中松平氏の領地となってこの地に府中陣屋が建設され、明治維新に至る約一六〇年間、その支配が続きました。

近代になると、この一帯には教育施設が相次いで建設されました。まず明治六年に石岡小学校が開校、明治四十三年に新治郡立農学校(現在の石岡一高、のち大字石岡に移転)、大正元年に石岡実科女学校(現在の石岡二高、のち府中五丁目に移転)、そして昭和二十二年には石岡中学校(のち東石岡四丁目に移転)が開校しました。

このように、この地は石岡の枢要として古代から近代に至る歴史を重層的に担ってきたのです。

ちなみにこの石碑の位置は、中世府中城の土塁であり、昭和戦前期に石岡小学校の奉安殿が建てられていた場所です。

平成八年八月

石岡市教育委員会
石岡市文化財保護審議会

土塁の上に記念碑がある

その記念碑がある場所から先程の土塁方向を見る

石岡小学校内にある陣屋門/茨城県指定文化財

高麗門の形式という

県指定
有形文化財

石岡の陣屋門（建造物）

所在地　石岡市総社一丁目2番11号
指定年月日　昭和四十三年九月二十六日

石岡の陣屋門は、文政十一年（一八二八）二月に建てられた。元禄十三年（一七〇〇）初代水戸藩主徳川頼房の五男松平頼隆が、府中藩主となり、以後明治維新に至る約一七〇年の間、石岡地方は府中松平藩の支配下にあった。府中松平氏は、水戸徳川家の分家として、「御連枝」と呼ばれた。

江戸時代に代官その他の役人が在任した屋敷や役宅は、一般に陣屋あるいは、陣屋敷と呼ばれていた。

石岡の陣屋門は、本柱の上に妻破風造の屋根がつき、本柱の控柱の上にも、本屋根と直交してそれぞれ別棟の小屋根をつけ、扉と控柱とを覆っている高麗門の形式である。

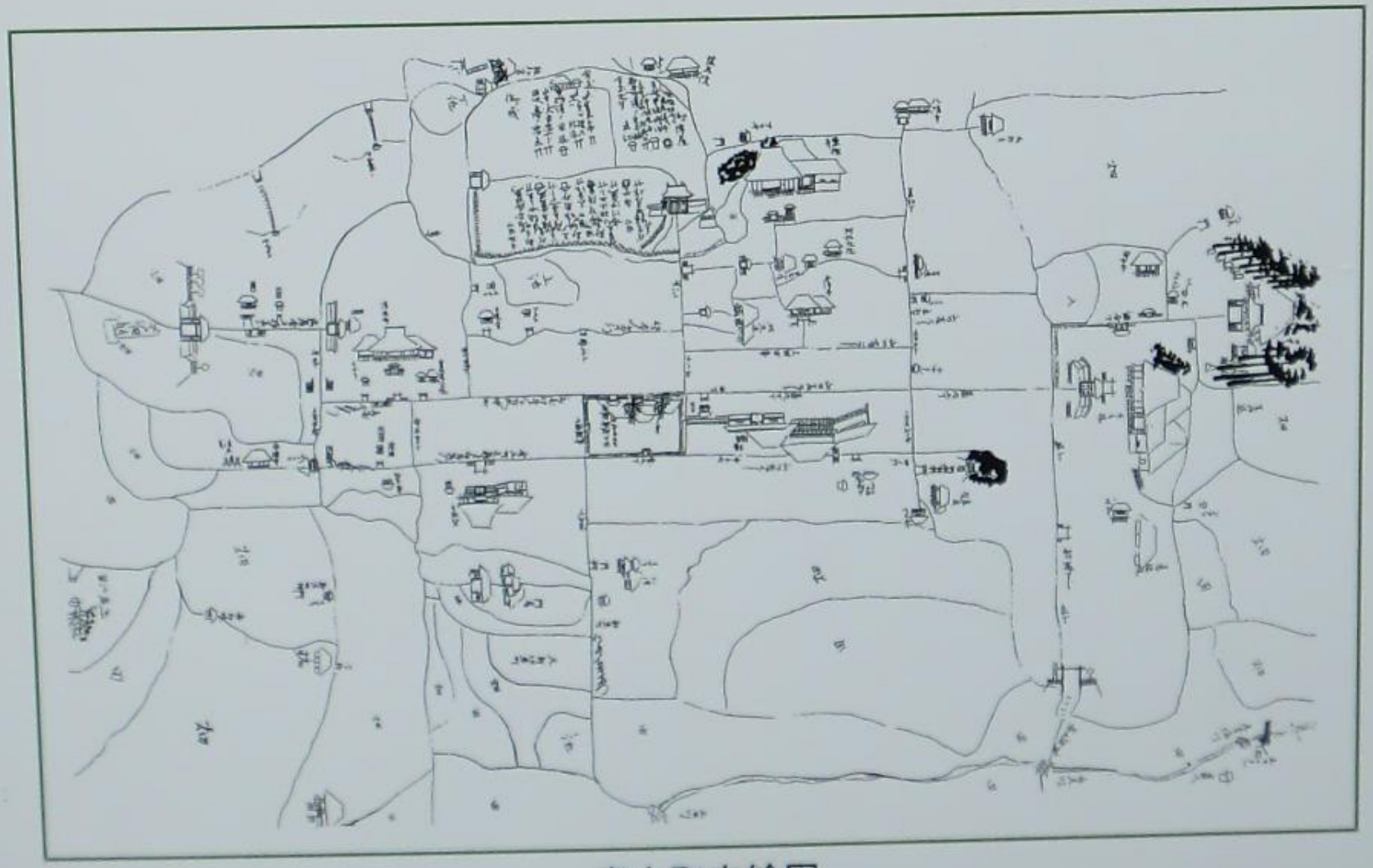
この門は、冠木と棟木間が土壁で閉ざされている高麗門に比べ、冠木が本柱を貫きとおし、また冠木と棟木間に格子を組み入れるなどの手法を見せている。

陣屋門（移設前）

府中町方絵図

平成二十四年三月　石岡市教育委員会

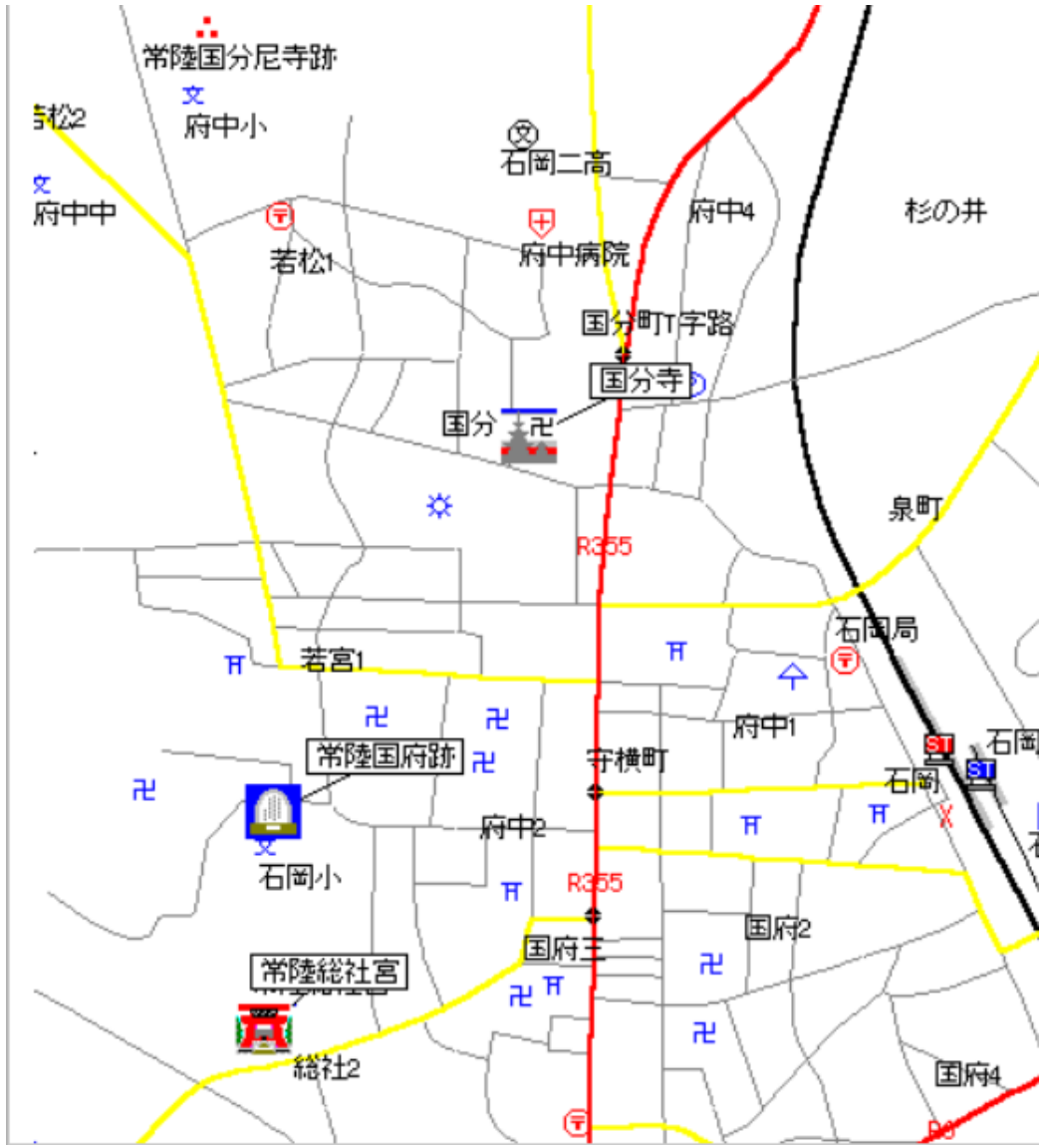
陣屋門（移設前）



府中町方絵図

この場所から小学校内に移設された

小学校の校庭を見る


常陸国分尼寺跡
府中小
石岡二高
府中中
府中4
杉の井
若松1
府中病院
国分町T字路
国分寺
国分
泉町
R355
石岡局
若宮1
府中1
常陸国府跡
寺横町
石岡
府中2
石岡小
R355
国府2
国府三
常陸総社宮
総社2
国府4

参考ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/~de3m-ozw/0toukai/ishioka/ishi04.html

http://www.kasumigaura.net/mapping/page/970815a2-19.html

http://www5c.biglobe.ne.jp/~ogm/siseki/rsfile1/s004.htm

http://www.rekishinosato.com/hitachikokuga.htm

http://homepage3.nifty.com/ytamaki/tabi/hitati-iseki.html

http://www.kasumigaura.net/mapping/page2/970815-kokuga.html

http://ishioka-kankou.com/001osirase/hitachikokugakunisitei.html

http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/bunkazai/kuni/shiseki/12-28/12-28.html

http://komatsu0513.heteml.jp/hitachi.html